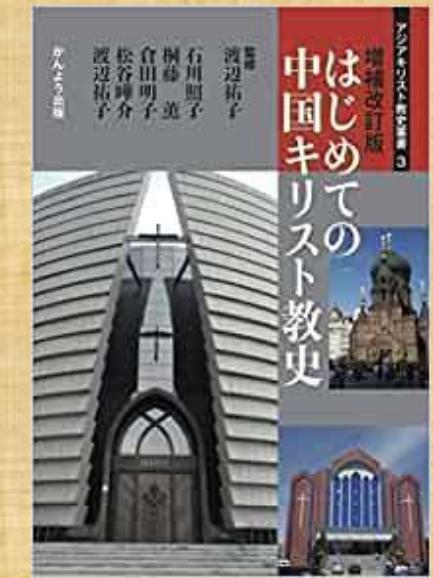
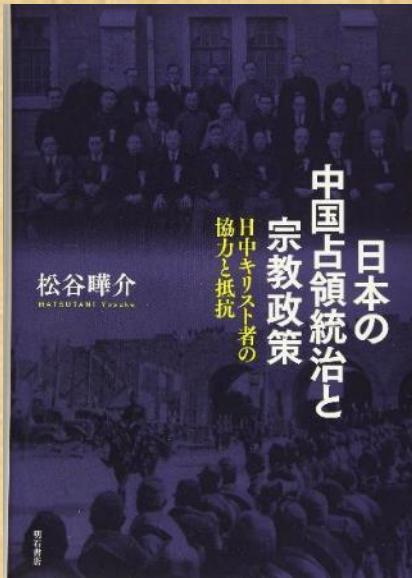
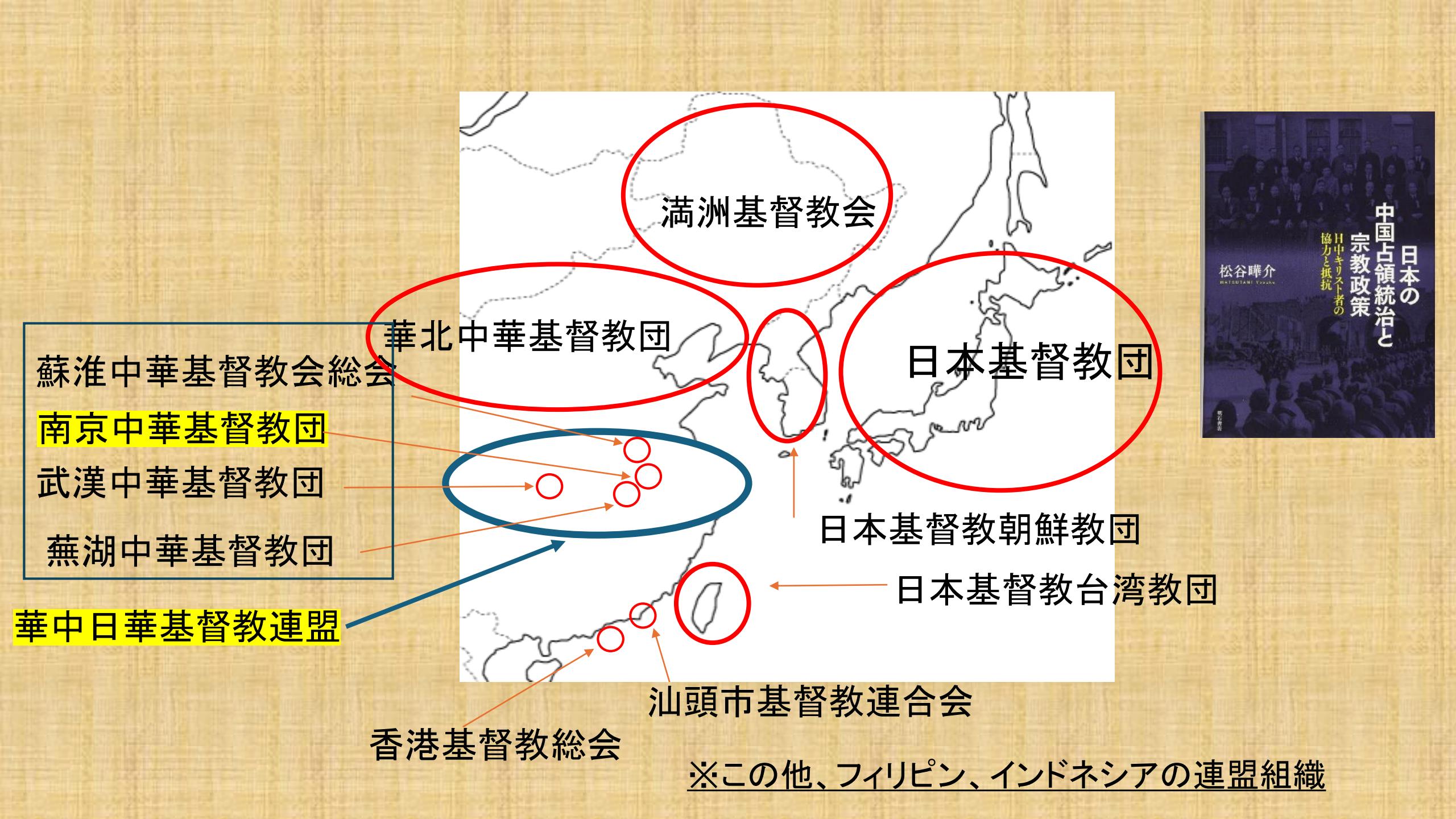


# 南京中華基督教団(1943年)

松谷暉介(金城学院大学)

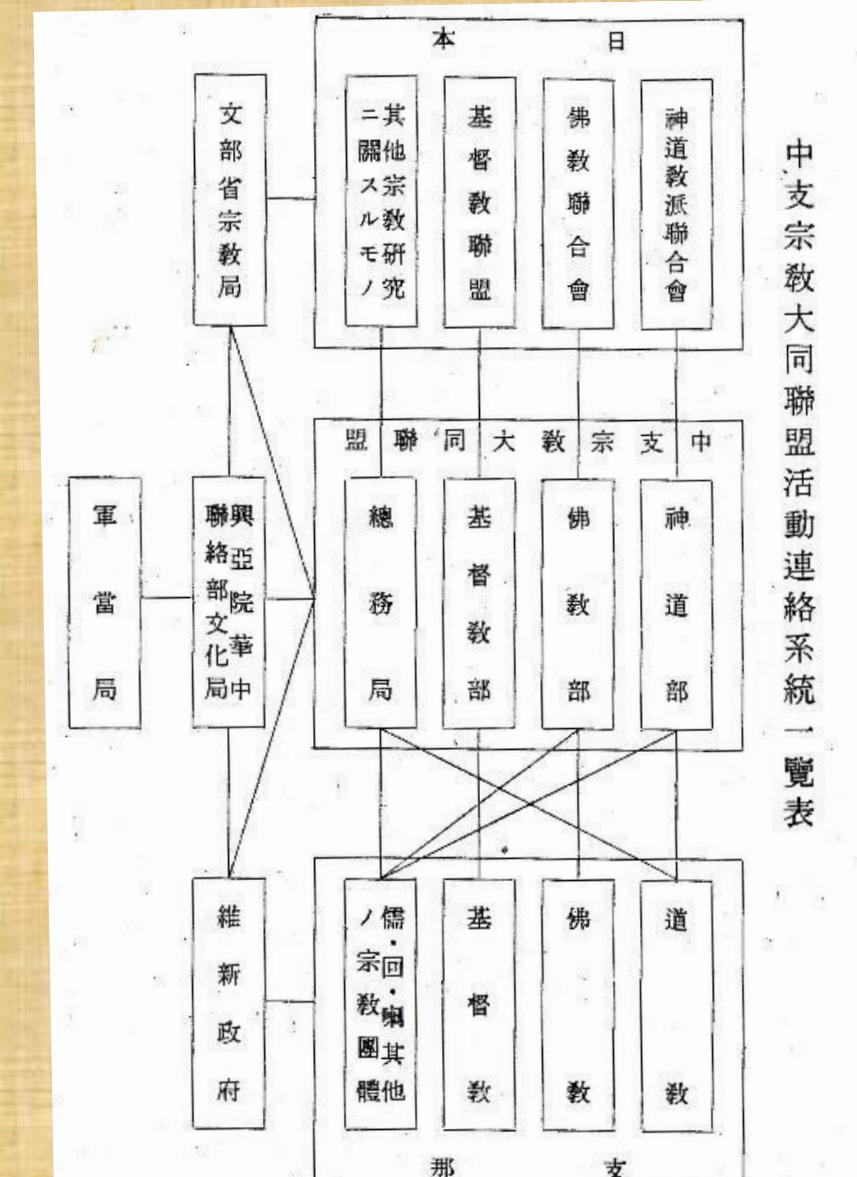
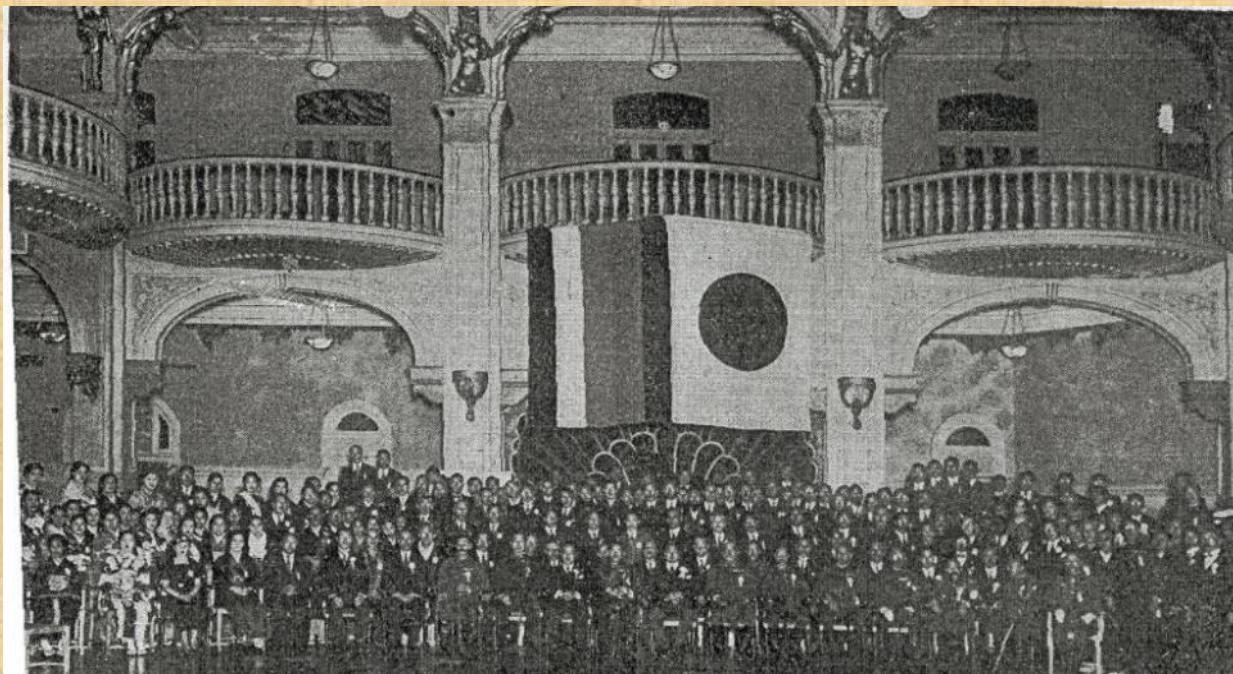




# 中支宗教大同連盟(1939年2月)

## ・宣撫工作としての宗教工作専門組織

- ・①日本からの諸宗教団体の統制
- ・②占領地の中国宗教団体の統制
- ・③日中の宗教団体の協力組織結成



# 中支宗教大同連盟(1939年2月)

- キリスト教政策:

- ～1941年12月(太平洋戦争)
  - 宣教師の対日世論是正
- 1941年12月(太平洋戦争)～
  - 中国の合同教会結成推進
  - 阿部義宗、聯盟理事長に着任



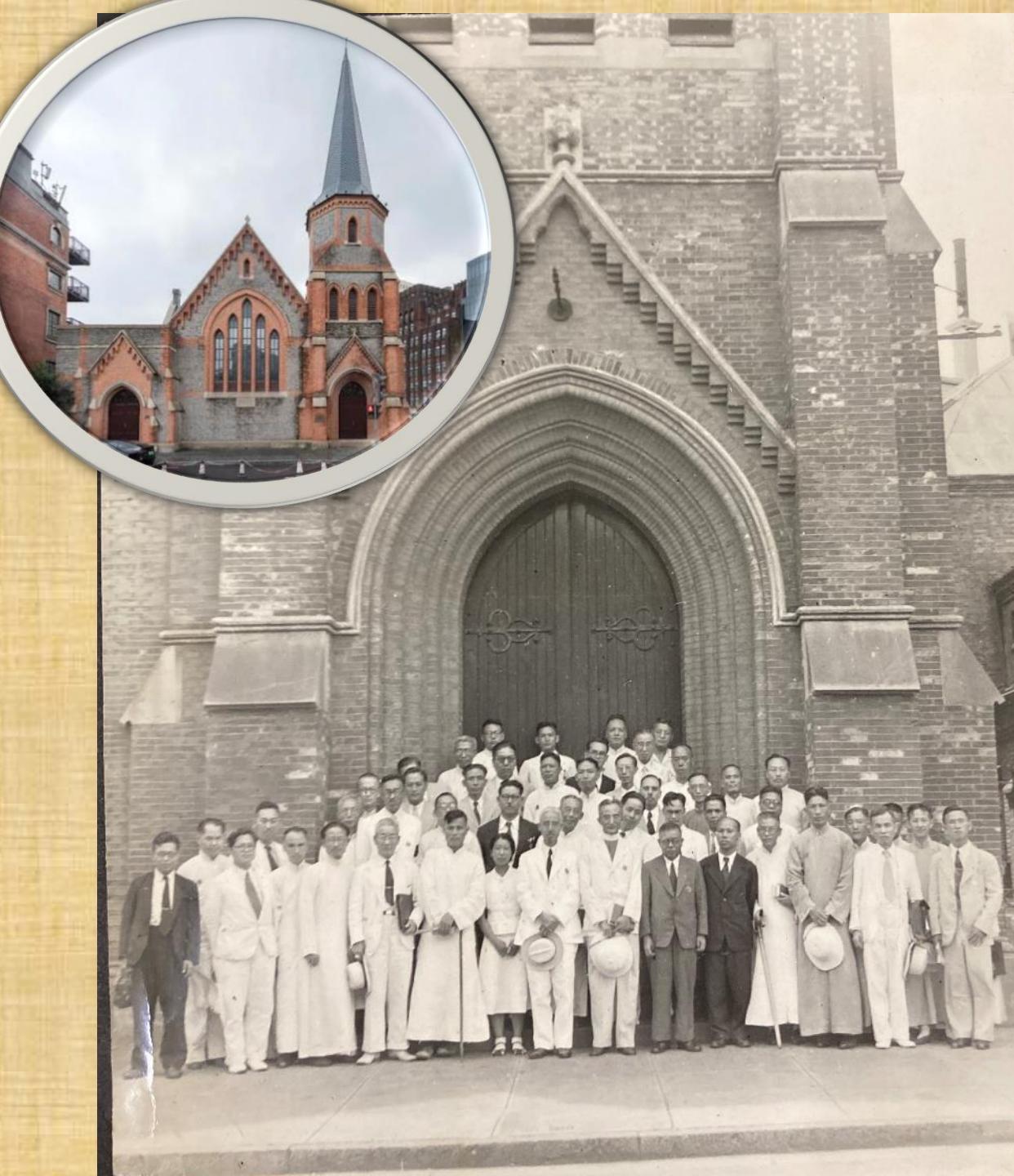
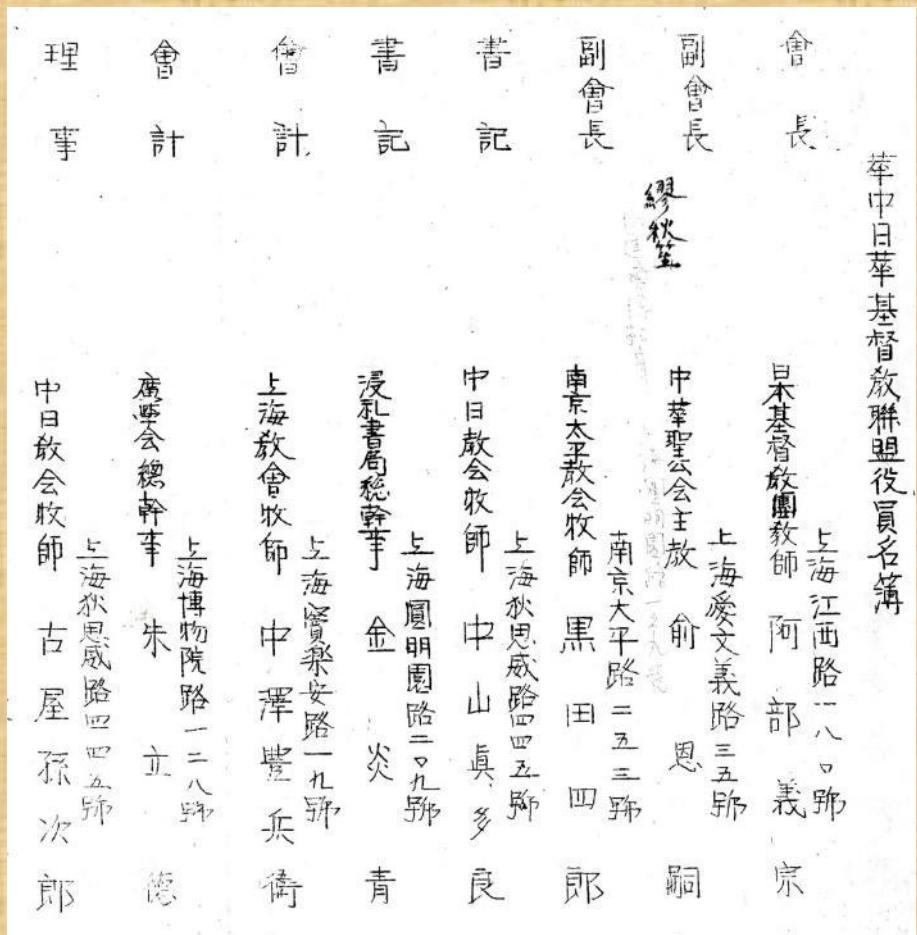
# 日華基督教聯盟

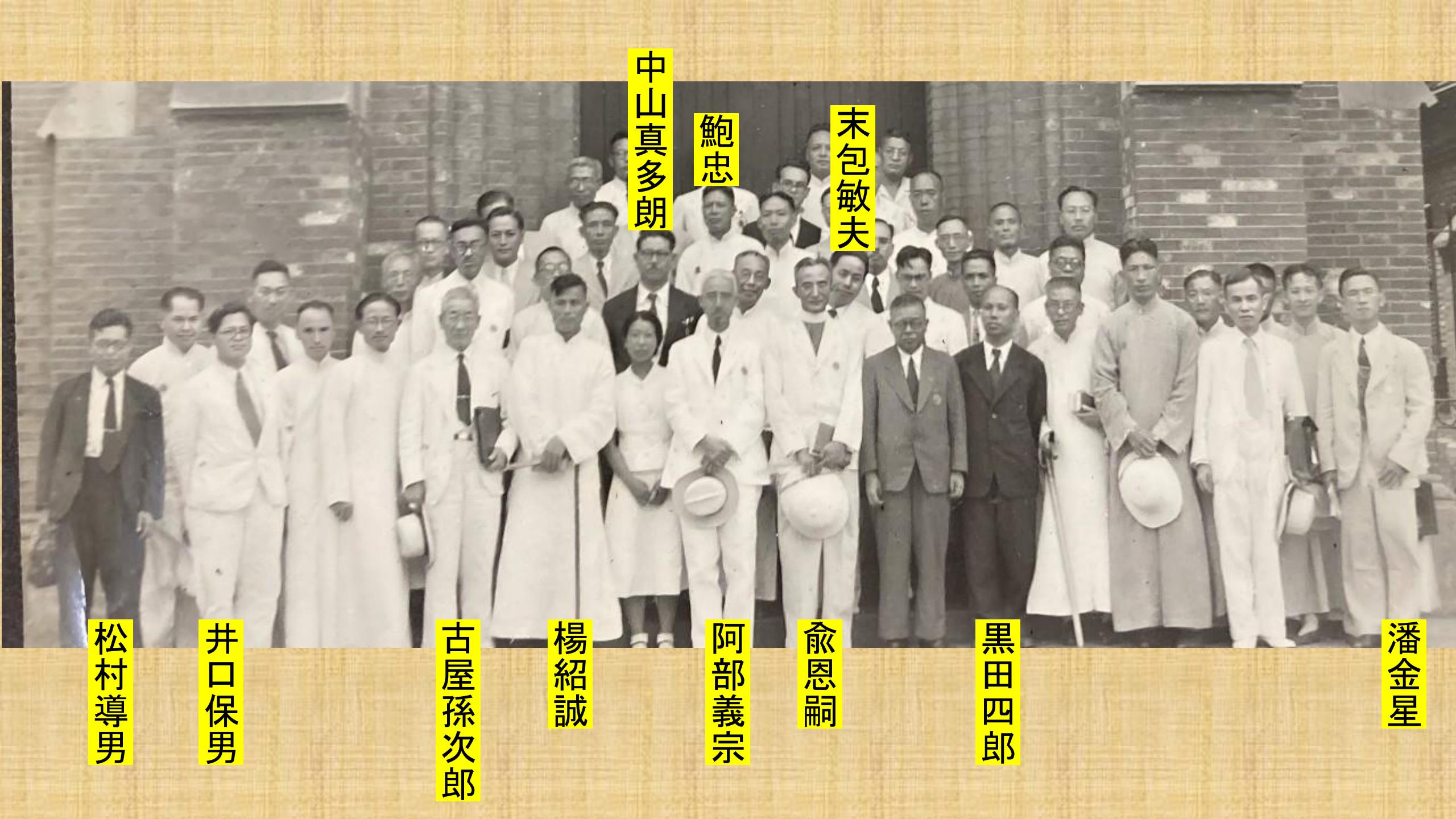
- ・都市レベルの日華基督教聯盟
- ・1942年8月末まで、上海、南京、蘇州、太倉、崑山、鎮江、蕪湖、杭州、常熟、無錫、丹陽、楊州、蚌埠、平望など少なくとも14都市
- ・1944年10月末までには16都市に増加



# 華中日華基督教連盟

• 1942年8月26日 @ 上海新天安堂





松村導男

井口保男

古屋孫次郎

楊紹誠

中山真多郎

阿部義宗

俞恩嗣

黑田四郎

鮑忠

末包敏夫

潘金星

# 小崎道雄：都市単位の“中華基督教団”結成指導

・小崎道雄

小崎弘道の息子

靈南坂教会牧師

日本基督教団・

東亜局局長

戦後は教団議長、  
WCC委員等歴任

蕪湖(1943/1/23)



# 小崎道雄:都市単位の“中華基督教団”結成指導

蚌埠(1943/2/23)



# 南京の事例

一九三九年—一九四一年

南京基督教聯盟

南京基督教協進会



安村三郎  
(YMCA)



末包敏夫  
(YMCA)



井口保男  
(YMCA)



黒田四郎  
(日本基督教會)



永倉義雄  
(聖教會)



相互交流(献金、御茶会、英語礼拝等)



M.S.Bates  
(ディサイブルス派)



J.Magee  
(聖公会)



鮑忠  
(中華基督教会)



楊紹誠  
(来復会)

# 南京日華基督教聯盟

一九四二年三月二十三日



理事長:黑田四郎



書記:鮑忠



副理事長:楊紹誠



會計:永倉義雄



書記:井口保男

理事長	日本基督教團南京太平教會主事	黑田四郎
副理事長	來復會來賓會堂主任牧師	楊紹誠
理事		
常務理事	日本基督教團南京太平教會主事	黑田四郎
全右	全南京教會主事	永倉義雄
全右	東亞傳道會南京中國基督教會主事	黑田四郎
全右	南京日本基督教青年會主事	井口保男
全右	衛理公會城中會堂主任牧師	王古恩
全右	聖公會聖保羅堂主任牧師	郭書青

(南京市檔案館)

## 宗旨

以建設世界新秩序為目標 靠賴多少貴重血之犧牲而造成公正之民族其勇猛果敢之決心 揭開了歷史的新紀元 我等在南京之日 華兩國基督教徒亦痛感此時機甲責任和使命之重大性 使信仰得以漸次確切 必須相攜手互協力彼此激勵 並在基督教固有精神之立場上為民族之幸福及希求永久之和平決傾全力以赴之 特光輝燦爛紙正福音之大纛樹立於大東亞之新天地為獲得增進福利計決獻身奉公期使大東亞共榮園之早日確立造成天國之實現是也

民國三十一年三月二十三日

## 南京日華基督教聯盟

### 宣言

在東亞民族解放聖戰下我等南京日華基督教信徒痛感其責任及其使命重大當在基督教固有之基礎上互相提携彼此協力以愛之正義並犧牲之精神本基督教信仰之原則挺身邁進期使大東亞共榮園之早日確立

### 創立結成大會

# 南京日華基督教指導者練成会

- 1942年11月23～25日
- 日華基督教聯盟主催
- 25教会・団体、代表108名
- 南京特務機関長・原田久男の訓示
- 神学、哲学、歴史、古典、日本基督教、日本佛教などに関する講義



# 南京日華基督教指導者練成会

- ・宣言文
- ・南京日華基督教指導者練成會に欣然参加せる我等在南京基督教團體廿五、代表一〇八名は、三日間に亘る練成を終り、大東亞時局の認識と理解を深むると共に、我等の負ふ責務の愈々重大なるを痛感せり。
- ・標語に選ばれたるが如く「後ろのものを忘れ前のものに向ひて勵み標準を目指して進め！」の聖言に従ひ、悲壯なる決意の下に日華一心一體と成り、總ゆる困苦と欠乏を排撃し、敢然起つて挺身「新しき皮囊に新しき酒を盛る」の使命を完遂し、大東亞基督教樹立を高揚に邁進し、聖國の擴大強化と民衆の福利増進を計り、以つて大東亞建設に寄與せん事を誓ふ。右宣言す。

# 1943年2月 南京中華基督教団@漢中堂



(現在の  
莫愁路堂)



周明懿

江鑑祖

潘金星

王世熙

永倉義雄

黒田四郎

阿部義宗

邵仲香

楊紹誠

小崎道雄

王明德

松村導男

井口保男

# 南京中華基督教団

・役員：

理事長：楊紹誠

副理事長：鮑忠

理事：陳裕華、邵仲香

監事：郭書青、潘濟塵、周明懿

顧問：黒田四郎、永倉義雄、阿部義宗

名誉幹事：井口保男

・成立大会出席者：

在南京総領事の好富正臣

南京特務機関文化主任の河野〔名は不明〕

内政部長である陳羣の代理

中国人牧師約30名、中国人信徒約1200名



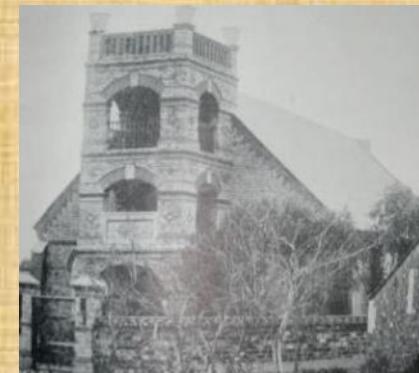
# 問い

- ・「対日協力」をした楊紹誠は、「漢奸」(売国奴／裏切り者)か？
- ・南京中華基督教団は単なる傀儡組織か？



# 楊紹誠(1889－1982)

- 1889-1982年 中国来復会(Advent Christian Church)の牧師
- 1920年代にアメリカ・オーロラ大学(イリノイ州)に留学
- 1930年代 南京来復会の主任牧師
- 南京基督教協進会(協議会)にも参与
- 1937年12月～ 日本軍南京占領、一時避難するが翌年期間
- 南京国際救済委員会の活動に貢献



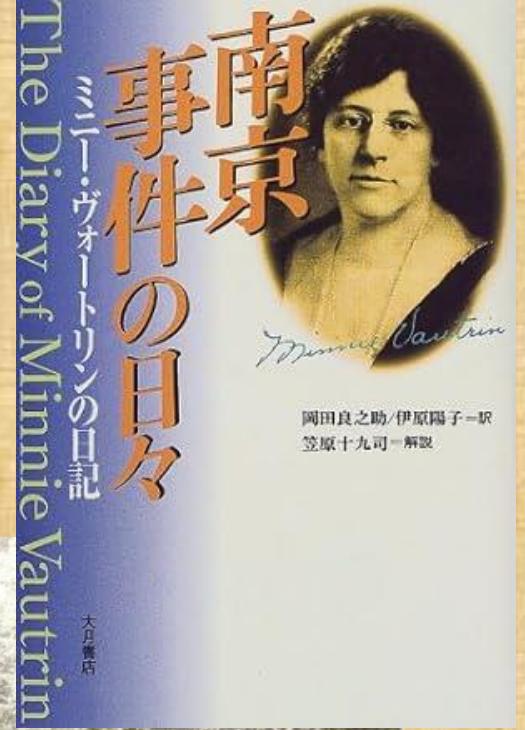
# 楊紹誠(1889－1982)

- ・日中戦争下での避難民救済:南京国際救済委員会と



# 楊紹誠(1889—1982)

- ・日中戦争下での避難民救済:ミニー・ヴォートリンと



# 楊紹誠(1889－1982)

- 南京の現在の問題は虐殺された何千という人々ではなく、なお生き残っている人々です。彼らの多くは今でも家が全くなく、ある人々は家があってもその中は完全に空っぽの状態です
- .....私たちが援助している多くの人々は自分自身に誇りを持っている人たちですが、自分の失敗の故でもないのにほとんど物乞い同然にまで身を落としてしまった人たちです。
- 愛するこの土地で物的援助と靈的慰めを人々にもたらすことは、その両方の必要があるまさにこの時、私にとって大きな喜びです。



# 楊紹誠(1889－1982)

- 孤兒救濟事業



# 楊紹誠(1889—1982)



# 1939年冬 来復会の 小学・中学校

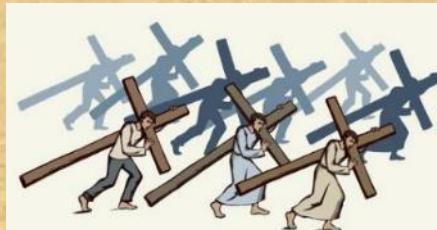


# 1940年4月 盲人兒童職業訓練學校

# 楊紹誠(1889－1982)

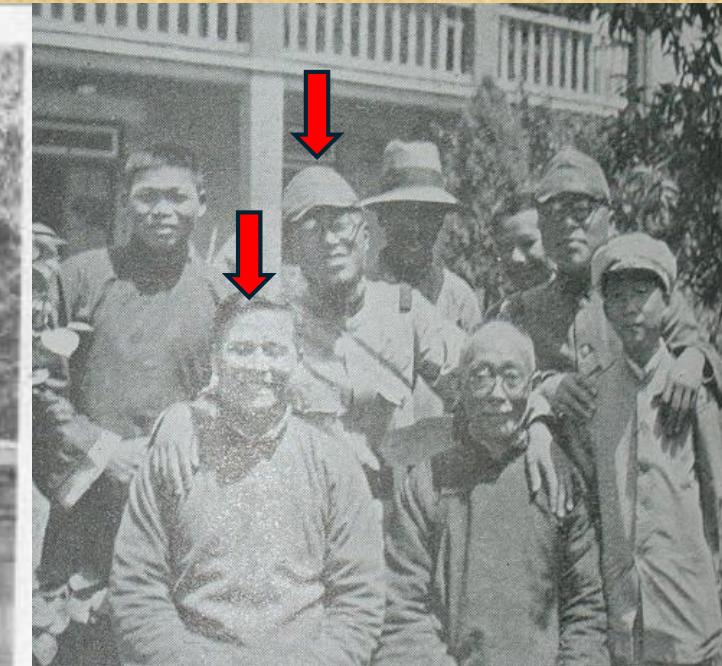


- ・日本軍占領地域に位置する教会
- ・礼拝場所を他の安全なところに移動されるようにという友人たちの勧めを辞退。
- ・「なぜならイエス様とその弟子たち、そして初代のキリスト者たちのことを思ったからです。彼らも占領された地域で歩みました。彼らは残酷なローマの兵隊たちに侮辱されました。私たちもキリストの弟子であるならばその同じ道を歩み、私たちの十字架を担わなければなりません。今こそ自分自身で説教してきたことを実践するときです。」



# 楊紹誠(1889－1982)

- 1938年5月頃、日本軍の鉄道工兵士として南京に駐屯していた日本アドベント教会の岩越重雄と再会
- 岩越が楊紹誠の働きを支援
- 楊紹誠夫妻が病気の岩越を看病
- ヴォートリン:「和解の機会」



之に就いては、前掲、南京中國基督教會牧師、的場常蔵氏の盡力に負ふ所少なしとしない。  
又、同氏の斡旋も來復會堂牧師、楊紹誠氏の好意なくしては能はざる所であつた。

七

# 楊紹誠(1889—1982)

- 1939年、安村三郎
  - 楊紹誠を「親日派」の牧師と報告
  - 日本外務省「基督教工作第二次報告」(左)
- 1940年、興亞院華中聯絡部の報告
  - 楊紹誠は「率先して日本人を好意を示す」
  - 「南京與蘇州的基督實情調查」(右)



基督教工作員第二次報告

一 昭和十三年十二月十六日南京國際經濟委員會支那人從事員劉懷德  
外五名南京市警察ノ命ニヨリ治安防害ノ嫌疑ノ下ニ捕縛セラレ、  
其後ノ經過當方トシテ甚ダ不利ナル事情ニテ英語ヲ解スル支那人  
ヲ通ジテノ工作困難トナリ此ノ方面ニ於テハ殆ド爲ス處ナクシテ  
終リシハ甚ダ遺憾ナリ

但シ來復會牧師楊紹誠ハヨク日本ヲ了解シ日支提携ノ必然性ヲ認  
識シテ新東亜建設ノ眞ニ實現サルル事ヲ待望シ今後ノ相互的理解  
ノタメニ盡力スペキ誠意ヲ有セリ、外ニ二三名同様ニ日支提携ノ  
新東亜建設ノ根本的理想的ニ於テ誠意ヲ以ツテソノ達成ニ盡力スベ  
キ事ヲ表明セルモノアリ南京國際經濟委員會無給奉仕主事韓、許  
兩名ナリ

一 前項ノ事情ニヨリ主力ヲ第三國宣教師ニ對スル工作ニ向ケタリ、  
特ニ南京ニ於ケル宣教師團ノ主腦部ヲナセル長老會派ノミルズ、

# 南京中華基督教団は傀儡組織か？

- ・「保護傘」の機能：教会存続・再開／旧教派の枠組み維持
- ・事例①：中華基督教会全国総会編『公報』1943年10月10日発行、上海



・鮑忠牧師：「南京区会〔中会〕の句容の教会は事変の最中に牧師が他の地域に避難した。……今年〔1943年〕の春〔句容教会の〕詳細な事情が私に伝えられ、積極的に〔教会復興を〕推進するのに必要なすべてのものを神に請い願った。私は黒田四郎牧師、楊紹誠牧師、そして建築士の陳裕華先生を伴って句容に赴き、以前の教会堂をどのように修理整頓すべきかを視察し、また現地に軍の長官にこれまでの事情を報告して教会の再開の許可を願い出た。結果は良好であり、各長官とも補助と保護の責任を果たす意志を表してくれた。」



- ・事例②：中華基督教会南京区会に属する4教会

- ・1943年4月17日、牧師・長老による執行委員会を招集、1941年10月の区会年議会で組織された同執行委員会の合法性を改めて承認し、

# 小結

- 楊紹誠の南京残留の決意
  - 南京で生き残った人々への物理的・靈的配慮
  - 「占領地域」に留まったイエス・キリストに倣い、十字架を担う
- 南京中華基督教団／南京日華基督教聯盟
  - 対日協力行為：大東亜共栄圏完遂祈祷会など
  - 教会保護・再開の機能／旧教派の維持
  - 一定の自由空間と自主性→日本当局の統制の緩さ？
- 今後の課題
  - 華中地域の他の中華基督教団の状況はどうであったか？
  - なぜ華中地域を網羅する「華中中華基督教団」は設立されなかつたのか？



詳しく知りたい方は.....

